

「強膜炎の臨床像の検討」

1. 強膜炎とは？

人の目を構成する成分として強膜というものがあり、眼球の形を保持する重要な役割があります。何らかの原因によりこの強膜に炎症がおこることを強膜炎といいます。

症状としては、目の充血や痛み・視力障害があります。その原因は自己免疫疾患や感染性疾患などがあります。個々の病気の詳しいことに関しては、主治医から説明があると思いますが、眼科・全身検査を受けても原因が特定できないこともあり、強膜炎の原因の約半数が原因不明です。

2. 本研究の目的

強膜炎では、その病型により軽症例から重症例まで重症度は様々です。治療法は局所治療と全身治療に分類されます。局所治療は主に副腎皮質ステロイド（以下ステロイド）の点眼、全身治療には主にステロイドの内服や免疫抑制剤の全身投与、また感染が原因の強膜炎では感染の原因となる微生物に対する抗微生物薬の投与を行います。軽症の場合は点眼治療で改善しますが、重症の場合は全身治療が必要となることがあり、重度の視力障害をきたす場合があります。

本研究では1998年から2017年にアイセンターを受診し、強膜炎と診断され、加療された患者さんの視力、眼所見、全身検査所見、全身疾患の有無、治療内容について後ろ向きに検討し、杏林アイセンターにおける強膜炎の全体像を検討、さらに重症例の予測因子について検討し今後の診療に反映させていくことを目的としています。

3. 研究内容

調査対象は1998年4月1日から2017年5月31日までに杏林大学医学部附属病院アイセンターで強膜炎と診断され治療を受けた患者さんです。調査内容は、患者さんの年齢、性別、初診日、治療の種類、治療前、開始後の視力、眼所見、全身検査所見、治療内容です。

この調査では、あなたが当院で受けた検査や治療の情報をカルテから調べさせて頂き、データとして集計後、当施設にて解析を行います。そのため、この研究にご協力頂くために特別な検査や治療を新たに行なうことは一切ありません。また、この研究では、調査内容に患者さんの個人を特定できるようなデータ（氏名、住所、患者IDなど）は一切含みません。なお本研究の実施について杏林大医学部倫理委員会の承認を得ています。

4. 同意の自由、同意撤回の自由

今回の研究は、過去の診療情報を調べさせて頂くものであり、特に患者さんに新たな負担やご迷惑をおかけすることは無いと考えています。もし、この研究に自分のデータを含めないでほしいというご希望がございましたら、下記の研究責任者までその旨を電話、郵送、またはアイセンター受付へお申し出下さい。この研究に協力しないからといって、今後の診療に何ら不利益になるようなことはありません。

5. 費用負担に関する事項

今後の強膜炎の診断・治療は一般診療として執り行われますので、一般診療に要する費用（検査費、診察料、薬代など）については通常通り患者さんに負担して頂く必要があります。それ以外の負担をお願いすることは一切ありません。また、本研究に関する謝金はありません。

6. 研究成果の公表とプライバシー

データを総合し、その研究成果を学会発表、論文等により公開しますが、公開内容には個人のプライバシーに関わることは一切含みません。

7. 研究から生じる知的財産権の帰属

研究によっては、その結果において知的財産権が生じることが考えられます。このような場合に、大勢の方の診断結果を解析、集計して得た結果の知的財産なので、その権利は研究者あるいは杏林大学医学部附属病院眼科に属するものとさせていただきます。これは諸外国でも同様な考え方になっています。

本研究についてご不明の点がありましたら、下記までご連絡下さい。

研究責任者 杏林大学医学部附属病院 アイセンター 研究責任者 慶野博
お問い合わせ先

住所 〒157-0065 東京都三鷹市新川 6-20-2 杏林大学医学部附属病院眼科
電話 03-3308-7850 (内線 2606、眼科医局)